

Urban Design Lab. Magazine

2018.02.28 vol. 262



青春の賛歌を綴れ

I n t r o d u c e T h e i r A c a d e m i c R e s e a r c h e s

東京大学
工学部都市工学科/
工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室

<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/>

2017 年度 卒業研究・修士論文・博士論文発表

I. 学部：都市デザインの迷宮へ	p.2
II. 修士：荒削りの力作揃い	p.4
III. 博士：数多の試練が成した大作	p.6
激闘後の宴のアルバム	p.8

編集長： 松田季詩子

編集委員： 神谷安里沙 田中雄大 中村慎吾
岡山紘明 但馬慎也 中戸翔太郎



都市デザイン研究室 研究発表紹介

Introduce Their Academic Researches, year 2017

text_OKAYAMA/M1

巷は厳冬を跳ねのけるようなオリンピック選手団のめざましい活躍に熱狂しているが、ここ、都市デザイン研究室での研究の熱も負けてはいない。睦月から如月にかけて、例年おなじみ学部4年、修士2年、博士の各学生が研究の集大成となる発表を行った。鉄火冷めやらぬままの各発表者が、研究の「内容」「目的」「感想」の3点について記す。

学部：都市デザインの迷宮へ

Introduce Their Graduation Researches

田無エンノウ住区 —土地と暮らしの農を通じた再編—



仙石 宇

(写真左) 駅前から生活に働きかける農業拠点 / (写真右) 旧道沿いに線的に農を拡張した「農の道」



この論文の内容

田無の農村的な背景を呼び起こし
地元での生活と農を新たに結ぶ

この論文の目的

「住」に特化した地域にその土地
ならではの暮らしを提案する

卒業研究を終えての感想

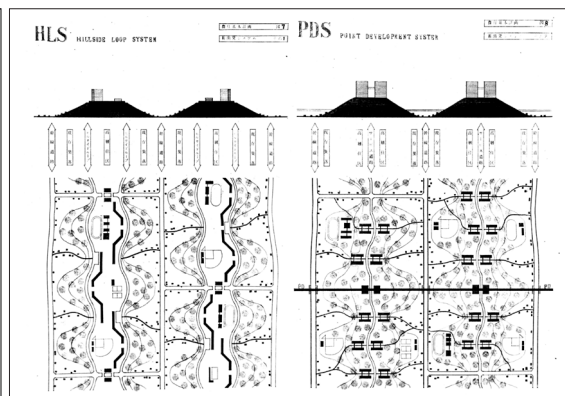
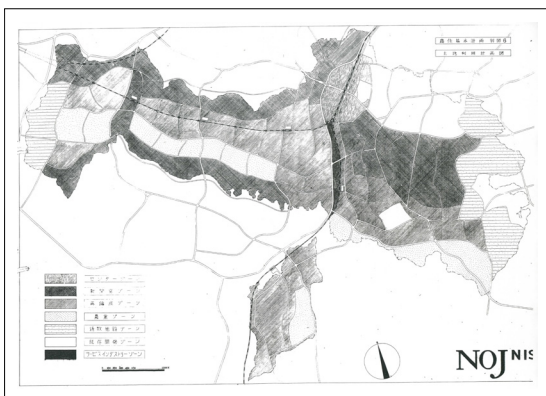
対象地先行ではなく問題意識も伴って進めてきた卒制のはずでしたが、駅、旧道、農から公共施設、グリーンインフラまで、考える要素も対象範囲も広げすぎてしまった結果、全体のストーリーも設計対象敷地もまとまりが生まれず苦労しました。地域の農と住民の新しい関係づくりに答えを出せたこと、「沿農」のプログラムを通じて最終的に市全体に対してもある程度空間的な提案ができたことについてはよかったと思います。

農住都市構想とその地域的展開に関する研究 柿生地域農村住宅団地建設基本構想に着目して



原 洪太

(写真左) 柿生地域全域の
土地利用計画図 / (写真右)
農協側の人間によって提示
された郊外空間像



この論文の内容

人口増加時代に、農協側の人間が
提示した、郊外空間像の解明。

この論文の目的

今後の郊外空間のあり方を考える
ヒントを探る。

卒業研究を終えての感想

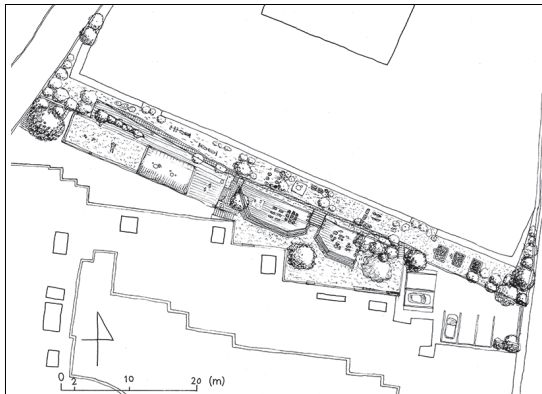
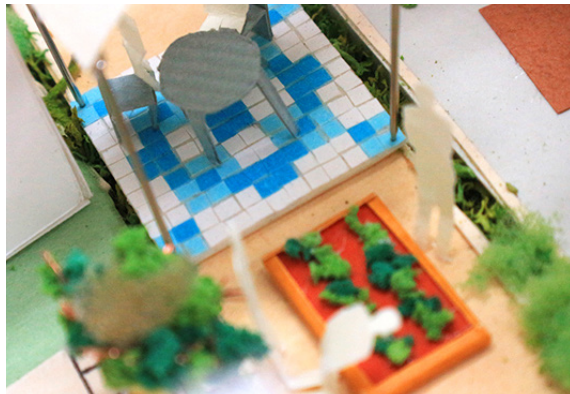
感想としてはまず、扱った構想、計画は、もっと深い内容だったのではないかと、読み解くべき部分はもっとあったのではないかと。一楽照雄は、山名元は、文献に残る以上を考えていたのではないかと。足りない部分が多かったのではないかと。そして、扱った計画の範囲(1 市区町村レベル)の生業や生活を組み込んだ計画を行いたいということもあります。このような計画は、町をより面白くすることに繋がるのではないかと。思います。

ウラから培う 私(ひそ)か町ー住宅地Yの下地ー



前山 倫子

(写真左) 細かい模型、ありがとうございました / (写真右) マンション境界の設計平面図



この論文の内容

敷地内外の境界を緩め、私的でひそかな町のウラ側をつくります。

この論文の目的

町が外側からなんとなく変わるのを妨げる方向を示すことです。

卒業研究を終えての感想

確実に得たものがあったと思える一方、自分の足りなさをたくさん知った数カ月でした。分からないことや迷うことばかりでしたが、町に対する思いのような自分の考えが最後まで残り、何らかの形でできたこと、それを伝え、いろいろな方に思議していただけたことはとても嬉しかったです。指導していただいた先生先輩方や助けてくれた皆さんに、本当に感謝しています。同期、これからも頑張りましょう。

MEDIUM 現代型地域コミュニティ形成の媒体となる公共空間



箭川 展

(写真左) 旧校舎を引き立てる新校舎 / (写真右) 農向かい合う神社と小学校



この論文の内容

小学校と神社を中心としたエリアリノベーション

この論文の目的

人と人の関係から地域愛を生む、記憶を生かしその場をつくる

卒業研究を終えての感想

まずは、3つのステップでそれぞれ難しかったな、と感じます。分析では、特徴がなく感じられてしまうときもありました。計画では、自分の設計ボキャブラリーのなさや事例収集の下手さに腹が立つ時もありました。表現では、考えたことを図にできず文章にできず歯がゆい時もありました。それでも最終的に空間として少しだけじっくりくる感覚が得られた点はよかったです。諦めなかった自分は褒めたいと思いますし、支えてくれた全ての人に感謝しています。

彼らの戦いを垣間見て

今年度の学部4年生は卒業設計3人、卒業論文1人となった。また今年度から修士1年と学部4年でペアを組み、研究の相談を行う取り組みも行われた。彼らに少しなりとも関わってきた岡山が4人の活躍を少し振り返ってみたい。

美しい模型と整理されたプレゼンを発表し、見事レモン展、建築学会 全国大学・高専卒業設計展示会の出展を決めた仙石くん。初めての論文に悪戦苦闘し、先生方からの前日の怒涛の修正点にもへこたれず、見事発表しきった、原くん。プレゼン苦手意識がありながら、敷地分析から提案まで丁寧に行い、近代建築の誌面に掲載されることとなった、前山さん。気さくな人柄からたくさんの人に相談し、最後まで悩み抜きながら、聴衆の心を掴むプレゼンを行った、箭川くん。それぞれに迷いながらも作り上げた研究はどれも素晴らしいものであった。修士での活躍にも期待したい。(M1 岡山)

修士：荒削りの力作揃い

Introduce Their Master Thesis

text_OKAYAMA/MI

卒業研究より一足早い1月29日、30日には、修士2年生の5名が無事に発表を終えた。研究の対象敷地をみると、大阪・道頓堀、大阪・上本町、台湾、甲府、イタリア…と全てがプロジェクトの地と異なり、かつ、首都圏から離れた場所となった。2年間の限られた時間の中で、プロジェクトに精力的に取り組みながら、遠隔の対象敷地とも向き合い、意欲的かつユニークな5つの論文が誕生した。自主的に賞に応募する学生もあり、続報を待ちたい。

神谷 安里沙

遊歩道整備による沿川建築物の変化に関する研究
- 大阪市道頓堀川を対象として -



遊歩道沿いの建物の表情は各々異なっている



この論文の内容

道頓堀川沿いの建物を
ひたすら見て、聞いて、
読む

この論文の目的

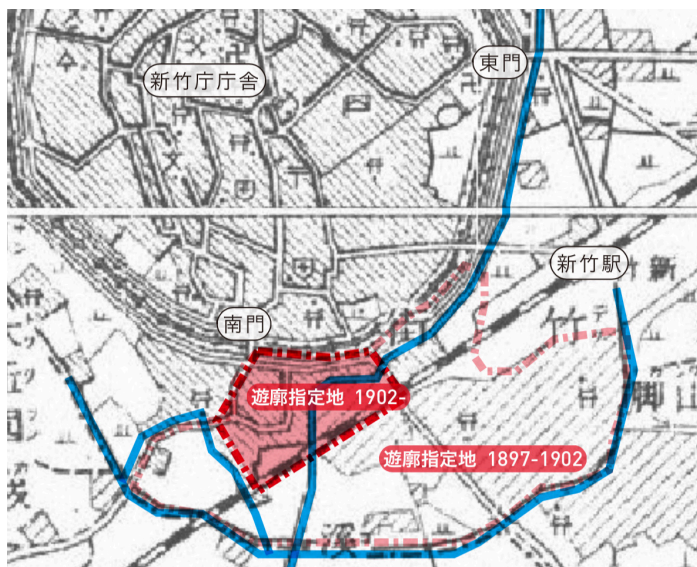
沿川建築物変化のメカ
ニズムと、現在の使わ
れ方を明らかにする

修士論文を終えて

就活を機に訪れ「いいな」と思った6月。建築物の写真を撮りまくった8月。行政のアボが取れず途方に暮れた9月。当ても無いまもりあえず現地に飛び出した11月。やっとヒアリングできた12月。誰も知らない、何も知らない中「あの人なら知ってるかも」と次々に紹介してくれるまちの人たちの支え無しでは提出できなかったと思います。人の繋がりと優しさが心に沁みると共に、新参者として地域に入っていくことの難しさを痛感しました。

三文字 昌也

台湾における遊郭立地の研究 1895-1945
- 日本植民地都市計画論の観点から



新竹の遊廓指定地。城廓、市区改正との対応が分かる。



この論文の内容

台湾に存在した全遊廓
の立地状況を史料から
掘り起こし都市スケ
ールで考察。

この論文の目的

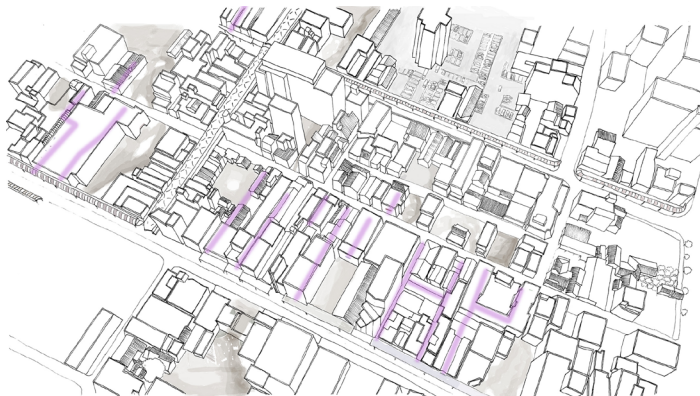
植民地台湾で行われた
都市計画を新しい観点
から捉え直したかつ
た。

修士論文を終えて

新しい事実がたくさん出てきて、整理できたところは非常に楽しかった。実際に、これまで語られてこなかった植民地台湾の都市の現象論は面白く描けたと思う。しかし、それが当初目指していた「植民地都市計画論」を語る次元まで到達できたか、と言われるとまだ疑問符が残る。あくまで一つのパーツとしてひとまず修論になったのだなあ、というのが感想です。研究室のマットレスの柔らかさに救われました。

田中 雄大

「高度成長期横丁」に関する研究
- 山梨県甲府市中央1丁目を対象として -



全体計画はないけれど、地区一帯で飲み屋街となっている。



この論文の内容	この論文の目的
高度成長期の自生的な都市空間と、それを生み出した時代性と場所性の考察	「高度成長期横丁」という都市建築の新しい概念の発見と提唱

修士論文を終えて

大きな問題意識というよりは、これまでの都市での体験から自分が重要と思い、関心がある「何か」を、興味のままに研究させてもらった。様々な想いを持ちつつも、様々な背景から解放たれて、「都市は面白い」ということを追求した結果、一つの論を立てられたことは自信になった。修論を終えてより一層強く思う、自分の想像を遥かに超えて、都市はもっともっと奥深いだろう。都市に生きる無数の主体の一人として、今後とも都市に関わっていく。

中村 慎吾

再開発ビルにおける古典集積空間の特性に関する研究
- 大阪府上六地区を中心として -



研究の原点となった飲食店街の独特の風景



この論文の内容	この論文の目的
40年ほど前に建設された再開発ビルの空間特性分析	設計手法がまだ洗練されていない頃のビル空間の再評価

修士論文を終えて

卒業研究では設計を選択したため、本格的に論文を書くというのはこれが初でした。詳細なテーマも分析の切り口も定まらず気づけば残り数ヶ月……。もっと早く焦点を絞るべきだったというのが悔やまれますが、大阪の再開発ビルをひたすら見て回り、時には関係者に話を伺って回ったのは良い思い出です。修士論文としてはこれで一段落つきましたが、せっかく縁を持ったことなので、古い再開発ビルの姿は今後も追ってゆきたいと思っています。

松田 季詩子

イタリアの新自治体基本計画における農地ゾーニングと地域ブランドとの相互関係性に関する研究
- Veneto州 Valdobbiadene市を対象に -



地域のキーである100ha強の大事な農地です。結構高くて怖いです。



この論文の内容	この論文の目的
イタリアの自治体基本計画の最近の変化をブドウ畑ゾーニングを例に紹介しました。	地域ブランド（産品と産品のご当地観光）の行政計画側からの下支えを知りたかった。

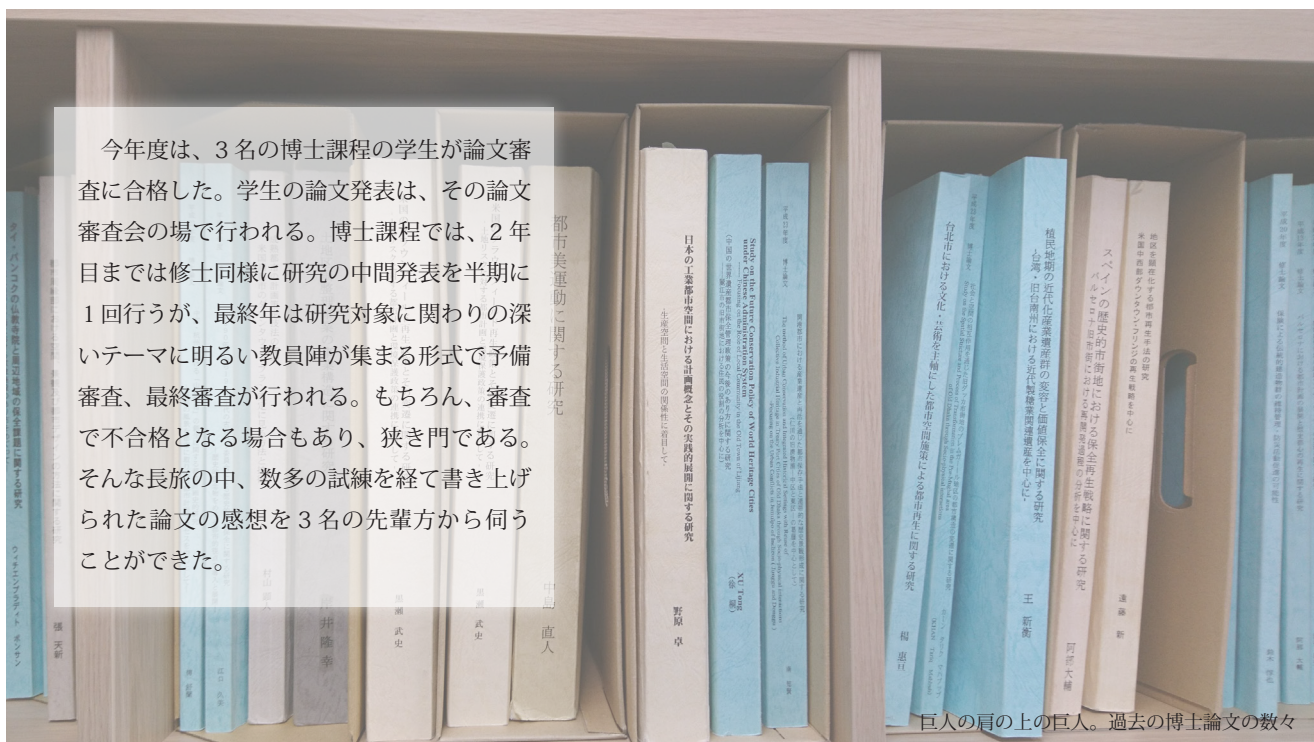
修士論文を終えて

都市計画するってなんかえらそうだな〜と自分の設計になんとなく落ち込んだ3年半前を覚えています。トップダウンの権化のように思っていたイタリアの都市計画は、少なくとも理念には、規制の行使だけでなく「素敵な資源と個々の都合を分かりあうしくみ」を細かく含んでいて、勝手に築きあげた「計画なるもの」の虚像と心のしこりのものを確実に溶かしてくれました。色々なことを知ろうと思います。

博士：数多の試練を超えた論文

Introduce Their Doctor Thesis

text_OKAYAMA/MT



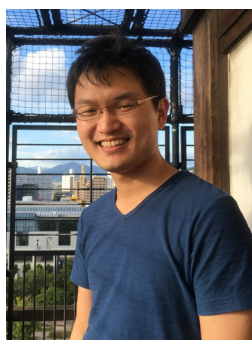
今年度は、3名の博士課程の学生が論文審査に合格した。学生の論文発表は、その論文審査会場で行われる。博士課程では、2年目までは修士同様に研究の中間発表を半期に1回行うが、最終年は研究対象に関わりの深いテーマに明るい教員陣が集まる形式で予備審査、最終審査が行われる。もちろん、審査で不合格となる場合もあり、狭き門である。そんな長旅の中、数多の試練を経て書き上げられた論文の感想を3名の先輩方から伺うことができた。

巨人の肩の上の巨人。過去の博士論文の数々

西川 亮

観光地都市計画に関する研究

一戦前期から1960年代までに着目してー



この論文の内容

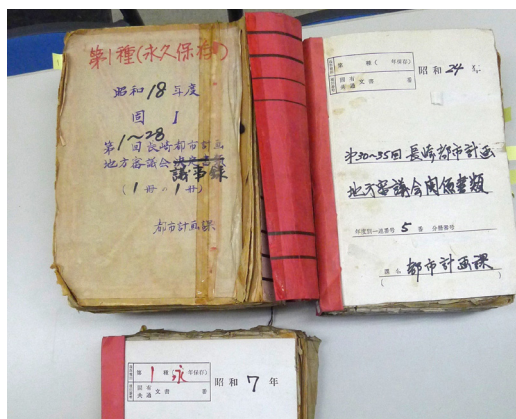
かつて日本の観光地には都市部よりも質的に豊かな都市計画があった！

この論文の目的

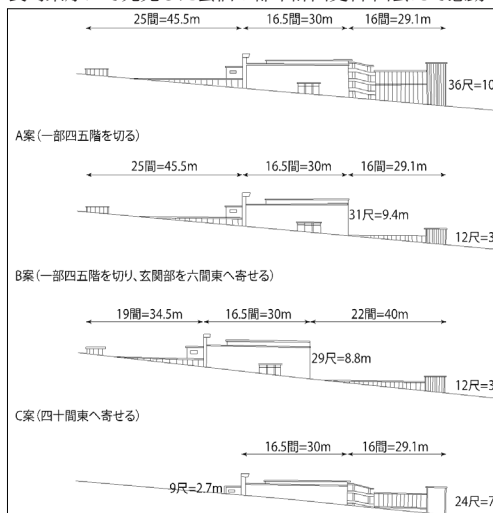
戦前から1960年代の観光地における都市計画の展開を全国的に解明

論文を終えて

平日日中はコンサルタントとして勤務し、週末に研究するという二足のわらじ状態を続け、途中休学を挟んで4年半。出張の多い仕事ということもあり、研究に集中できない環境が続きましたが、漸く博士号の取得に至りました。日本の観光地における都市計画史。このテーマに至るまでには、欧米の事例を見るなどテーマ決定に2年半費やしてしまったのが反省ではありますが、今振り返るとその時間も大切だったのだと思います。博士論文を終えた今は、山の頂上に登りきったというよりも、中腹にある博士号に見合う論文を書いたという到達点に達した感覚です。いつ辿り着くか分からない頂上を目指して更なる努力あるのみです。



長崎県庁にて発見した雲仙の都市計画史料 出会えて感動



1950年代の熱海にあったデザインレビュー的な議会審議

柏原 沙織

ハノイ旧市街の「職業の通り (phố nghề)」の変容メカニズムに関する研究

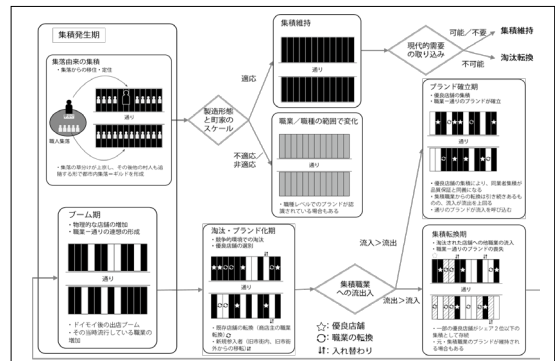


この論文の内容

ハノイの同業者集積の変容分析を通じた動的な都市遺産価値の模索

この論文の目的

動的な無形文化遺産のマネジメントに向けた示唆の提供



同業者集積の転換メカニズム仮説

論文を終えて

走り切った感、安堵と感謝——博論を終えた今の感想はこれに尽きる。締切目前の時期、思いがけず返ってきたフランスからのメール。それまで点に見えていたハノイの情報がストーリーとして立ち上がり、一気に書き上げた。家事育児を夫に丸投げしてがむしゃらに取組んだラスト3か月は後ろめたくも、どっぷり研究に浸かってわくわくが止まらなかった。研究室会議を始めデザ研の贅沢な環境を生かせず議論の機会を逃し続けたことは悔やまれるが、研究の要所で先生方の導き・励ましで着実に前進できた。先生方、ハノイの方々、そして家族には本当に感謝しかない。研究内容の現場への還元も含め、この魅力的な街には今後も何らかの形で関わって行きたい。

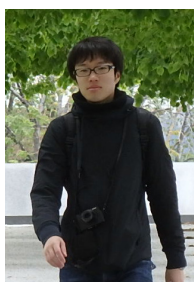


ハノイ旧市街の代表的な「職業の通り」

矢吹 剣一

米国の人口減少対応型都市計画に関する研究

- 空洞化地区に対処するマスタープランの策定手法とその実践に着目して -



この論文の内容

人口減少下で都市経営と住環境を維持するための都市計画技術に関する研究

この論文の目的

シニアな状況でも豊かな生活が営むことができる可能性を示すこと



プリントでみた草刈りババ (GI 地区の未来)

論文を終えて

「人口減少都市の計画技術」と意気込んだものの、発表を終えると山積した次なる課題に気づき、「こういうものか」と感じているところ（ただし、自分が読んで「面白い」と思う研究にできた点にだけは安堵している）。米国を対象とする無謀とも言えるテーマだったが、学内外・国内外の多くの方々の巻き込み、そして支えられ、なんとか形に出来た。心から感謝するとともに、（研究として社会に還元することで）恩返しせねば、という思いが大きい。論文執筆中と、西村先生や副査の先生方一人ひとりとじっくり話した時間は、充実した何にも代え難い時間だった。論文の意義はこれからの自分の実践次第だと思うので、研究と実践の両方を地道に続けていきたい。



海外でも現地の人との繋がりは支えになった

激闘後の宴のアルバム

After Finishing the Presentation of Their Thesis

text_OKAYAMA/MI

研究発表が終わると、都市デザイン研究室で行われる催事。そう、飲み会である。今年は修士学生の会が日本料理屋の「宮本」で学部生の会が「ちゃんこ浅瀬川」で行われた。漸く訪れた解放のひとときの写真を掲載する。



卒業研究発表会の打ち上げ 集合写真

(提供：中島直人)

写真を見て思うこと

これらの写真にはたくさんの笑顔が溢れている。これまでのプレッシャーからの解放感と達成感の表れなのだろうか。私は今春の大学院入学のため都市デザイン研究室の打ち上げに参加したことはない。私が打ち上がるのは来年の3月の予定だ。その頃には西村先生は研究室にいない。そう思うと西村先生という貴重な時間が刻々と過ぎていくことを実感する。来月16日に行われる最終講義が、待ち遠しいようで少し寂しい。兎にも角にも研究を終えられた皆さんを心から労いたい。(M1 岡山)



修士論文発表会の打ち上げ 二次会の様子



修士の学生と談笑する西村先生



修士の打ち上げの様子



夏季に提出した浜田さんも参加



食事を待つ姿から疲れが見える

Information

Project Headlines

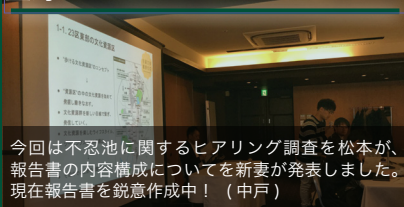
Web 記事もご覧ください。 <http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



Archives - 2月のweb記事

上野 第4回会議

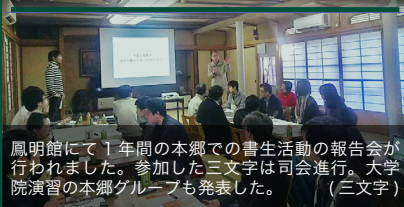
2/9(金)



今回は不忍池に関するヒアリング調査を松本が、報告書の内容構成についてを新妻が発表しました。現在報告書を鋭意作成中！(中戸)

本郷 書生生活報告会

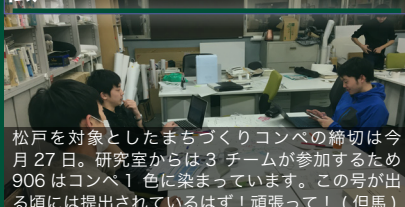
2/18(日)



風明館にて1年間の本郷での書生生活の報告会が行われました。参加した三文字は司会進行。大学院演習の本郷グループも発表しました。(三文字)

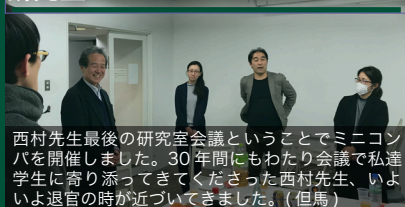
Hey listen, - ちょっと聞いて！

松戸 提出前、最後の追い込み！



松戸を対象としたまちづくりコンペの締切は今月27日。研究室からは3チームが参加するため906はコンペ1色に染まっています。この号が出る頃には提出されているはず！頑張って！(但馬)

研究室 今年度最後の会議でした。



西村先生最後の研究室会議ということでミニコンペを開催しました。30年間にもわたり会議で私達学生に寄り添ってくださった西村先生、いよいよ退官の時間が近づいてきました。(但馬)

来月の予定

- 3/5 第7回高島平ヘリテージミーティング
- 3/16 退官シンポジウム第2弾
西村先生最終講義
- 3/22 修了式・追いコン
- 3/23 学部卒業式
- 3/24 三国現地フォーラム・UDCS 竣工式
- 3/26 手賀沼設計引き渡し

✧ 編集後記

研究室マガジンの毎月のタイトルは各月に行われる編集会議にて議論の上に決定する。今回も私が提案した第一案には容赦ない意見が飛んできた。そこで、著名な詩の一篇から引用した「先例」に倣って、私も詩を探してみたものの、なかなか見つからない。自分の教養の実力が測り取られた気分である。その反動で少し難しそうな言葉を本文中に使用した。さて今回のタイトルは何をモデルにしたか、お解りだろうか。ヒント、季節は夏である。(岡山)